

職場における交通安全指導 Part.19

女性ドライバーの事故特性と安全指導

1. 増加する女性ドライバー

女性ドライバーは、全国の運転免許保有者の約4割を占め、女性の社会参加が進むにつれて運転する女性が増え、運送業界でも女性ドライバーを採用する企業が増加しています。

特に、接客性の強い宅配関係やコンビニエンスストア等への配送関係等、この傾向は今後も続くことが予想されます。

表 男女別の運転免許人口

	運転免許人口		平成元年を100とする指数	
	平成元年	平成15年	平成元年	平成15年
女性	21,915,265 (37.0%)	32,681,581 (42.2%)	100	149
男性	37,244,077 (63.0%)	44,786,148 (57.8%)	100	120
合計	59,159,342 (100%)	77,467,729 (100%)		

一方、ドライバーの増加に比例して、女性ドライバーが第一当事者となる交通事故も増加傾向にあります。そこで今回は女性ドライバーの事故特性と安全指導について取り上げました。

2. 女性ドライバーの事故の特徴

類型別事故状況を全国データで見ると、女性ドライバーの最も多い事故は「出会い頭事故」で、男性ドライバー（追突事故）との大きな違いが見られます。

一方、当組合の契約車両による事故をみると、対人事故は追突事故が最も多く、対物事故では追突事故や車両単独（駐車車両衝突・工作物衝突）が多くなっていますが、対人・対物事故とも出会い頭による衝突、接触事故も決して少なくありません。

3. 女性ドライバーの運転特性

女性ドライバーは総じて無謀な運転をせず、目前に存在する危険に対して男性よりも安全に対処していますが、事故に結びつく可能性の高い一般的な運転特性としては、次のような特徴がみられます。

狭い道路やバックが苦手という人が多い。運転技術に自信のない人は、男性の1割に対して女性では4割に達するとのアンケート結果がある。例えば、狭路で擦れ違う際に車両接触や看板等をトラック上部で引っ掛けたりするケースである。

走行中、他車に依存する傾向が強く、（また男性ドライバーにも女性の依存性を容認する傾向がある）例えば、合流地点における強引な本線への割り込み、狭い道路への無理な進入などが見受けられる。これは、他人（他車）に対する甘えが強いことが一因している。

交差点において黄信号に変わったとき、「止まるのか」、「通過するのか」といった場合に代表されるように、決断力について概して男性よりは遅い傾向がある。

「まさか、脇道から自転車は飛び出してはこないだろう。」といったように見込み運転をする傾向がある。また、自転車が飛び出てきた場合など、とっさの判断・対応が苦手で、パニック状態に陥り易いのも女性特有の運転特性である。

4. 事件事例と事故防止

事例1：（追突事故）：A（25歳、女性）は2トン車を運転し、片側二車線道路の追越車線を走行中、前車の前に左車線よりの進入車があり、前車がブレーキを掛けたのでAも慌ててブレー

キを踏んだが間に合わず、前車と前々車の2台に玉突き追突し、前2台の運転者に重傷を負わせた。



(指導のポイント)

この事故の直積の原因は速度に応じた適切な車間距離をとっていなかったことです。次に前車がブレーキを掛けたのに気付くのが、一瞬遅れたために招いてしまった事故といえます。

この種の事故を防止するために次の点を指導してください。

まず、トラックの起こす人身事故の半数は追突事故であることを認識させる。

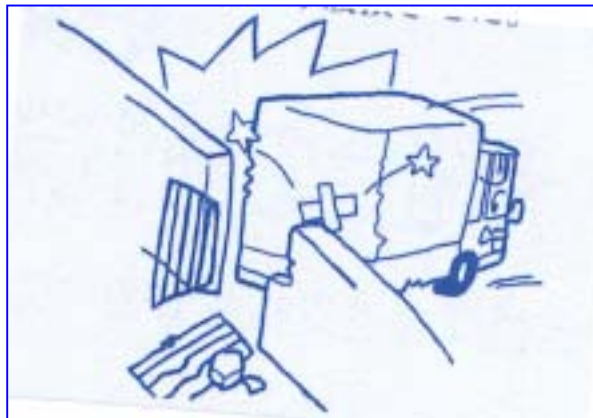
一人で乗務させる前にベテラン運転者等が事前に添乗し、トラックの特性や速度に応じた車間距離を指導する。

女性ドライバーは、一般的にとっさの場合の反応が男性に比べ遅いので、車間距離は多めにとるように徹底させる。

女性ドライバーの法令違反別事故件数(交通事故総合分析センターの資料による)によると、脇見運転がトップ、2位が速度違反だが、それとほぼ同じくらい多いのが漫然運転である。このような違反が結果として、追突事故の要因となっていることも併せて認識させる。

事例2:(バック事故):B(22歳、女性)は2トン保冷車を運転し、交通量の少ない住宅地を走行中、道を間違えたことに気付き、あわてて路上でUターンしようとバックしたところ、車の

後部が民家の門とブロック塀にぶつかり破損させた。



(指導のポイント)

バック事故も、女性ドライバーの事故では比較的多い類型です。

事例の他、看板を壊したり、構内での駐車車両に接触したり、軒先に幌を引っ掛けたり等を含めると、かなりの数になります。

バックは死角が多いため、運転上最も難しい操作といえます。しかし、「ちょっとだけ」という軽い意識からミラーだけに頼る安易な運転をしがちです。バックの際はミラー類はあくまでも補助的なものと考え、必ず自分の目で安全を確認することが鉄則です。

バック事故を防止するために次の点を指導してください。

初めて行くような配送先等については、事前に走行経路や付近の見取図を渡すなどして、道に迷うことのないように配慮し、本人が不安のない状態で出発させる。

バックする前に必ず車の後方の障害物の有無のチェックを自分の目で行う。

路上でバックする場合、道路を横切る歩行者や自転車に接触するケースも多いので十分注意する。

バック時の速度は人の歩く程度で行い、一気にバックしない。

多少の走行(距離)で広い道路に行ける場合は、面倒がらずに前進走行を行う。